

5 月末までは黒星病・黒点病の重要防除期間です。一定の間隔で薬剤散布を進め、果実感染防止努めてください。また、5 月初旬からケムシ類・アブラムシ類の越冬害虫の発生が見られます。主要害虫の被害が目立つ場合は、今回の散布を早める等の対策を講じてください。詳しくは下記をお読みください。

りんご



◆ 5 月中下旬の薬剤散布（前回散布より 10～12 日後）

散布時期：5/20～25 頃 ＊注意事項①、②参照

散布薬剤：水 1 0 0 リットル

展着剤 1 0 ml

ユニックス Z 水和剤 2 0 0 g（45 日前、4 回）

＊注意事項③、④参照

モスピラン顆粒水溶剤 2 5 g（前日、3 回）

＊注意事項⑤参照

スイカル 1 0 0 g（カルシウム剤）

＊注意事項⑥、⑦参照

対象病虫害：黒星病・黒点病・赤星病・うどんこ病

アブラムシ類・カイガラムシ類・リンゴワタムシ・カメムシ類

10 アール当り散布量：500 リットル

◆ 散布日 月 日

◆ 散布量 リットル

【注意事項】 ＊必ずお読みください。

- ① 上記の散布時期は目安です。気象条件や各園の病虫害発生状況等を考慮して散布時期を決定してください。尚、不明な点は園芸技術課担当までお問い合わせください。（営農センター TEL 23-3933 まで）
- ② 6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避けること。
- ③ ユニックス Z 水和剤はサクランゴに著しい薬害が生じるので絶対かからないように注意する。飛散が心配される場合はトレノックスフロアブル 500 倍（収穫 30 日前、5 回）を使用する。
- ④ ユニックス Z 水和剤に代えて、アントラコール顆粒水和剤 500 倍（45 日前、4 回）でもよい。
- ⑤ 前年度、カイガラムシ類が発生した園は、アブロードフロアブル 1000 倍（30 日前、2 回）を加用する。
- ⑥ スイカル等のカルシウム剤は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果がある。今回から 5～6 回連続して散布する。
- ⑦ スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。ストピットⅡは、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。尚、ストピットⅡの効果面・使用方法等不明な点は、園芸技術課担当までお問い合わせください。

◆ 裏面もお読みください。

りんご生育状況と今後の技術対策について

◆ ふじ生育状況調査（調査地点：平岡）＊満開時点：前年比－3日

年度	発芽	展葉	開花	満開	落花
H 2 5	4 / 1	4 / 9	5 / 2	5 / 6	5 / 1 3
H 2 6	4 / 3	4 / 1 5	5 / 2	5 / 3	5 / 1 0

参考：小田中
開花：4/30
満開：5/2
落花：5/9

参考：岩井沖
開花：5/3
満開：5/6
落花：5/12



4月の低温と極端な土壌乾燥により、発芽から開花までの期間が平年より長くなりました。加えて、花の咲き揃いが悪い園が多く見られました。また、品種間の開花の差も大きい傾向でした。

開花前（4/23～24）の低温により、王林・秋映・シナノゴールドの中心花の欠落や花器異常が確認されました。また、開花期の高温乾燥等により、ふじのカラマツ（不授精）が心配されます。

結実状況やサビ発生の程度を良く確認してから予備摘果等の作業に入ってください。また、ふじ等で極端に結実が不足している場合でも、樹勢の安定を図る為、素質の悪い果実も残すような対策で作業を進めてください。詳しくは下記の技術対策をお読みください。

◆ 今後の技術対策

- ① 満開後約3週間位で結実量や幼果のサビ等が十分確認できるようになります。よって、5月末を目安に予備摘果作業に入ってください。
- ② つがるや秋映等の品種で、凍霜害が大きい場合は、極端な一輪摘果を控え、まずは結実状況やサビ果の発生状況を確認してください。また、中心果の欠落が著しい場合は、素質の良い側果を利用して生産量の確保に努めましょう。
- ③ ふじ等で結実量が極端に不足している場合は、予備摘果時期を遅らせ、変形果やサビ果（果面の50%位まで）等の素質の悪い果実でも残し、樹勢の安定化を図ってください。
- ④ 凍霜害が大きい園では、側果を利用できるふじから優先的に予備摘果を進めてください。
- ⑤ 結実不良園では、早期の徒長枝切除は当面控えてください。また、梅雨明け頃に過繁茂状態になる場合は、適宜管理作業を進めてください。
- ⑥ 養分転換期に当たる5月下旬になっても、展葉枚数が少なく、葉色が悪く小さい葉が多く見られる場合は、追肥や葉面散布を実施しましょう。

注目！【ふじの青玉果除去対策】

昨秋の高温の影響で、果台が2cm以上伸長したのが多く見られます。この長い果台に結実した果実は、収穫時に青玉果（光玉）になることが多い傾向です。よって、摘果時に極力除去するようにしましょう。
詳しくは6月下旬の現地講習会で対策を講じますのでご参加ください。

